



# HITS通信

今回のHITS通信は、11月29日にHITSで行われた「モンゴル視察報告会」がテーマです。

## モンゴルでの出会いを求めに...



実は、モンゴルの首都ウランバートルはかなりの都会です。国全体の人口は約340万人ですが、ほとんどがこの首都に住んでいます!!なぜ、いきなりモンゴルかという、人材不足の観点から採用・雇用の幅を広げるべく、モンゴルに目をつけたからです。HITSでは、モンゴル人材に関心を持つ県北地域企業5社と共に「**モンゴル視察ミッション団**」を結成し、実際にモンゴルを視察しました。モンゴルでは、新モンゴル学園の学生との交流や日本式のモンゴル企業の見学を通し、モンゴルについて理解を深めました!今回の報告会では、モンゴル視察をアテンドしていただいた茨城県外国人材支援センターの吉澤さんからお話しいただき、参加者にも深くモンゴルを知っていただく機会を設けました。さらに、**モンゴルのスペシャリスト・中村**専門家が急遽日立まで来られ、モンゴルの今についてお話しただけました!



中村 功さん

モンゴル・日本人材開発支援センター(JICA) 専門家

現在、モンゴルより人材を雇用している日本企業からは、「**非常に優秀**」との声を頂いております。また、モンゴルの学生に対し「あなたが行きたい海外の国はどこ?」と質問をすると、その回答のほとんどに「日本」が選ばれております(下記YOUTUBEチャンネル)。日立地区では、日立製作所に関連した、モノづくり製造業が多いと思いますので、ぜひ積極的にモンゴルより人材を雇用して欲しいと思っております。モンゴルに限った事ではありませんが、優秀な外国人材を雇用することで海外進出を検討する一歩となり、その人材が自社での経験を活かし、母国に貢献するという画を描くことで、**外国人材の方々が日本企業で働くことに対しモチベーションアップにも繋がり、結果として会社に良い影響が生まれる**と思っております。



吉澤 智也さん

茨城県外国人材支援センター マネージャー

モンゴルでは、日本語教育が盛んなことから、日本で働く意欲を持つ若者が多いです。現地で実施した企業説明会やセミナーの全てを日本語で実施できることは、大きな魅力の一つかもしれません。また、現在はコロナで減便していますが、**成田から直行便が1日1便**(約5時間)あり、ベトナムよりも近く隠れた潜在国です。ここ数年、ITを中心に高い注目を浴び、「日本式」の小中高一貫学校や高専が複数設置されていることから、日本への関心は当面続くと予測されます。更に、英語・ロシア語・中国語・韓国語などバイリンガルなのもモンゴル人材の魅力の一つです。今後、優秀なモンゴル人材と接点を持ちたい企業様に対し、茨城県外国人材支援センターはじめ、JICA筑波やJICAモンゴル・日本人材開発支援センター、ひたちなかテクノセンター、日立地区産業支援センターと連携しバックアップをしていきますので、是非ご連絡ください。



# モンゴル視察ミッション団！生の声



モンゴル視察ミッション団には、(株)朝日精機製作所、(株)瀬谷製作所、吉野電業(株)、(株)セイキョウ、(株)関東技研の5社に参加いただきました。既に外国人材を採用している企業ですが、今回、新たに優秀な人材との出会いを求め、モンゴルへ一緒に行き視察してきました。




写真左から(株)関東技研さん、(株)セイキョウさん、吉野電業(株)さん、(株)瀬谷製作所さん、(株)朝日精機製作所さん



モンゴルには、日本式高専といわれる「新モンゴル学園」があります。今回は、新モンゴル学園のみなさんとお話してきました。モンゴルは学歴社会なので、大学進学率が70%! 日本語の発音は、モンゴル語に全て含まれていて、文法も日本語と似ているので、日本語はとても親しみやすい言語です!

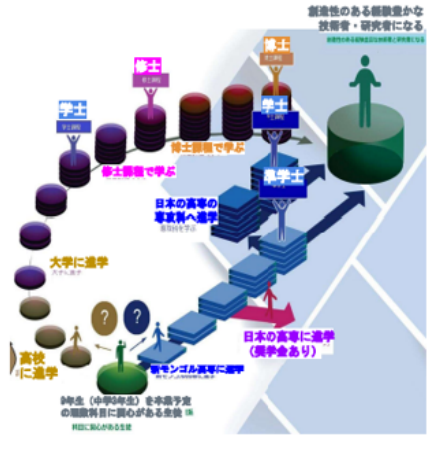
**新モンゴル高専**



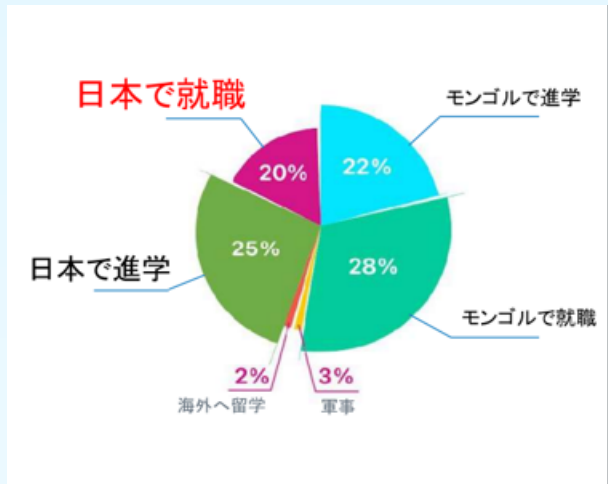
学科 : 機械工学、土木建築工学、物質工学、電子電気工学

総学生数 : 506名  
教職員数 : 53名  
総卒業生 : 90名

卒業生のうち、約45%が日本、55%が国内で進学または就職している。



高専生(中専3年次)を卒業学生の就職意向に照らした調査結果



## Q.新モンゴル学園の学生と接してみてどうでしたか?

- ・真面目で大人しい(逆にもっと積極的にコミュニケーション取っても良いかも)
- ・技術力や研究開発といった面で、優秀な印象。
- ・説明会などで対話することで、日本人と同じような考えを持っているということを感じた。
- ・積極的に日本企業で働きたいという学生が多いというイメージを受けた。
- ・在校生だけではなく卒業生も参加され、「日本に来たい!」という熱意を非常に感じた。
- ・強い目的意識を持って日本で働き・学ぶことで、企業とモンゴル国双方の発展に寄与できる。



## Q.今回の視察を踏まえて、今後どう活動していきますか?また、どのような支援が必要ですか?

- ・結局は「人対人」なので、日本人の採用と同じく、ビジネスで必要な人材を選んで採用していきたい。
- ・採用するのはモンゴル人ではなく「人」なので、優秀な人材を採用していきたい。また、企業だけでなく地域でモンゴル人材を受入れていくことでコミュニティも生まれ、良い循環が生まれると考えている。
- ・何名かは採用できるように準備していきたい。
- ・まずは、自社を見てもらうためにインターンをしたいが、受け入れるための体制面、資金面でハードルが高い。
- ・県北地域には外国人のコミュニティが少なく県南に行ってしまうことが多い。企業で働いたとしても、その家族も含めて地域との関わりを生み出さなければ、離職に繋がってしまうため何らかの支援が必要だと思う。
- ・優秀な人材が県北地域に根付いていく事が大事なので、1社でも多くの企業がモンゴル人材に関心いただくことが重要。

## まとめ 「百聞は一見に如かず！」

モンゴル視察報告会を開催した11月29日は、日本とモンゴルの国交樹立50周年を記念し、モンゴルのフレリスフ大統領が来日しておりました!このようなタイミングで本イベントを開催できたことには、大変深い縁を感じますね!モンゴルに限らず、優秀な外国人材を採用するためには、中長期的な視点で活動することが重要です。HITSでは、今後も茨城県北の中小企業とモンゴル国の双方で良い関係性を構築できるよう、関係機関の皆さまと協力しながら支援していきます!ご関心のある方は、ぜひ一緒にモンゴルへ足を運びましょう!



日立地区産業支援センター  
〒316-0032 茨城県日立市西成沢町2-20-1  
TEL 0294-25-6121  
HP <http://www.hits.or.jp/>



Facebook Instagram YouTube